

原発被災地を訪ねて

—大熊町社会福祉協議会—

7/14/2014

北村社会福祉士事務所

代表 北村弘之

私が所属しています、神奈川県社会福祉士会が主催した「原発被災地視察」に出かけました。

今回の大震災と原発の被害を受けた避難者の方は、全国に現在でも約 25 万人(地元含め)おり、そのうち神奈川県内で生活をされている方は約 2,000 名にも及びます。3年と4か月を経て、人数は減ってきているものの、県社会福祉士会として生活支援(相談、見守り等)を継続しています。そのような中、今回のバスツアーの初企画があり、40名の同士と参加しました。

私にとって、これまで岩手・宮城へのボランティア活動経験(ドロカキ等の力作業)はあったものの、原発の影響が大きい福島県への訪問はきっかけがなく、今回の経験は貴重なものでした。行先は福島県いわき市です。ここにお住いの大熊町社会福祉協議会の吉田利孝様に我々のバスに乗っていただき、説明を受けました。

説明役の吉田様は、大熊町の「帰還困難区域」にお住いだったようですが、現在は大熊町の住民の多くの仮住まい先とされています「いわき市」の社協の連絡所長として避難者の生活相談支援をおこなっているとのことでした。

ちなみに、福島県の避難者のうち、県内各地に約 81,000 名また、県外に 45,000 名の方がおられます。



福島県の避難民の特徴は何と言っても、「全国に離散」していること、そして、「家族が離散」していることです。今回の原発事故では、事故の翌日に避難指示が出たため、いままでの生活が突如として崩れ、何回にもわたる避難場所の移動生活の中、収入を得るために新しい勤務先での暮らしを始めなければならない人、また子どもの学校のために郷土を離れなければならない人、そして故郷を守るべく郷土での生活を送り続ける人、帰宅困難地区のために戻れず違った場所で生活をする人、がいます。

神奈川県内で避難者のお世話をしている社会福祉士の話によると、「福島の人、顔見知りの人の中で生活していた(つまり、知り合い同士での生活を過ごしてきた)が、今回の件で見知らぬ地で、慣れない環境の中で生活することは大変苦労が多い」とのことでした。

自分で希望して移住したのとは違い、原発という自分の意思とは関係のない状況のもとでの避難に怒りや焦燥感、絶望感があったことでしょう。今だにそれに近い気持ちの人もいるでしょう。

今回の説明役の吉田様は、バスの車中淡々と話していただきましたが、同じ福島県内であるにもかかわらず、いわき市の住民から、補償額の違いで「ねたみ」の話も聞くようです。ご本人も県内避難者の当事者で、自宅(大熊町)の写真を見せていただきましたが、お孫さんの小学校入学前の机

やピアノはそのまま、また自宅はねずみの糞で足の踏み場もないほどでした。息子さんの自宅は窓ガラスが破られ泥棒に入られているとのことでした。こんな状況の中、本当にむごいことをする人がいるものだと思います。

さて、被災地の状況についてバスの中、また吉田様からのお話しをご紹介します。

バスは、いわき市内から、海岸沿いを北上し、広野町、楡葉町と入っていきました。いわき市内では、津波の被害を受けた家屋がみられましたが、現在は海岸沿いの家では家の基礎は撤去され、かさ上げのための盛り土の準備をしているところも見受けられました。しかし、原発のある大熊町に近い楡葉町では、除染した大きい黒い袋が野積(左写真)みされていました。写真はその一部ですが、300m四方(右写真)はあるかと思われる施設でした。テレビ等の映像を通して見てはいましたが、田畑の除染を毎年行うので、この姿は今後多くなりそうです。ちょうどツアーバスで通った道の脇の田んぼの草が短いので、何か植えるのかと思ったら、除染したあとに草が生えてきたということでした。いつまで続くのか知れない除染作業。本来なら、行う必要がない除染作業を基準値が下がるまで行うしかない空しさを感じました。

福島県は本当に緑の多いところでした。「山々」そして「梨」「稲作」の地を奪った原発。いつもの生活を奪った原発。先祖代々の土地や墓を奪った原発。改めて経済の発展の重要性より、はるかに人間の命、そして安定した暮らし、そして人の尊厳を守ることが大切かを思い知った日でした。



除染物の仮置き場(ともに楡葉町)

右側写真は、天神岬スポーツ公園からみた貯蔵施設

我々、社会福祉士会の倫理綱領の一つに、「すべての人間を……かけがえのない存在として尊重する」とあります。

長期にわたる避難で、単身者のみならず夫婦で精神的な障害が見受けられるとのこと。私としては、今後一人ひとりの気持ちを大事にして話のできる機会を作りたいと思います。これは、決して避難者だけではありません。人間一人ひとりが大切なのです。



← 最近入居されてきた災害
公営住宅(いわき市内)

塩屋埼灯台。 →
今年初めに、ようやく登頂できる
ようになったようです。美空
ひばりの歌詞「みだれ髪」碑

